

統一論題セッション

氏名(Name)

山口隆英

所属・職(Affiliation)

兵庫県立大学 国際商経学部 教授

報告タイトル(Title)

日本多国籍企業の国際的な生産活動に求められるケイパビリティの将来的な課題

キーワード(5 keywords)

ケイパビリティ、日本の生産システム、モジュラー、インテグラル、アンバンドリング

要約(Abstract)

1. 研究目的(Objective)

日本企業の国際的な生産活動において、組織能力(=ケイパビリティ)は、海外生産を実現するために、日本の生産能力(=コア・コンピタンス)を海外工場に移転させ、海外での生産活動を可能にするものであった。国際生産の初期段階のケイパビリティは、コアコンピタンスの国際移転を実現するためのものであった。しかし、国際生産の進展や生産方法の変化によって、これまで求められていたケイパビリティとは違うタイプのケイパビリティが現在は求められているようである。この報告では、アンバンドリングという視点から、国際生産に求められるケイパビリティが変化し、現在および将来にどのようなケイパビリティが求められるようになるのかを説明する。

2. リサーチ・クエスチョン(Research question)

アンバンドリングという視点から、国際生産に求められるケイパビリティがどのように変化し、現在および将来、どのようなケイパビリティが求められるようになるのか。

3. 研究デザインと方法論(Research design/methodology)

国際生産の変化を歴史的に考察するとともに、現状に起きている変化を取り上げ、そこから、演繹的にリサーチ・クエスチョンの答えを導きだしていく。

4. 発見事項(Findings)

日本企業は、コア・コンピタンスを国際的に移転させて、国際生産を実現するという面において、優れたケイパビリティを発展させた。しかし、生産拠点=生産拠点のケイパビリティから、アンバンドリングが進み、生産拠点のネットワークとしてのケイパビリティが現在は必要となっている。さらに、アンバンドリングが進展することが予測されており、将来に向けては、AIの活用等に関連したケイパビリティの開発が求められることになる。

5. 理論的・経営管理上のインプリケーション(Theoretical/practical implications)

日本企業の国際生産活動に求められるケイパビリティは、個々の海外生産拠点をサポートするためのものだけでなく、企業内の国際的な生産ネットワークを支えるケイパビリティといった形で、ケイパビリティの中身の変化が起こっている。このような変化に対応するだけでなく、AI や IT の活用の進展に伴って起こるアンバンドリングに対応した新しいケイパビリティの開発が求められている。

6. 限界(limitations)

本報告は、個別企業のデータが十分でなく、どのような形でアンバンドリングが起こり、個別企業がどのようにアンバンドリングに対応して、新しいケイパビリティを開発しているのかということについては、研究されていない。個別企業の事例研究を進め、実際の変化に対するケイパビリティの変化を検討していく必要がある。

7. 独自性と価値(Originality/value)

近年、議論されているアンバンドリングという視点から日本企業の国際生産のケイパビリティを整理した。その結果、将来求められるケイパビリティについての議論を喚起できた。